

TRAFFIC SCOPE

交通参加者の行動を観察する

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

信号機のない横断歩道において ドライバーは歩行者保護を！

DATA 基礎情報

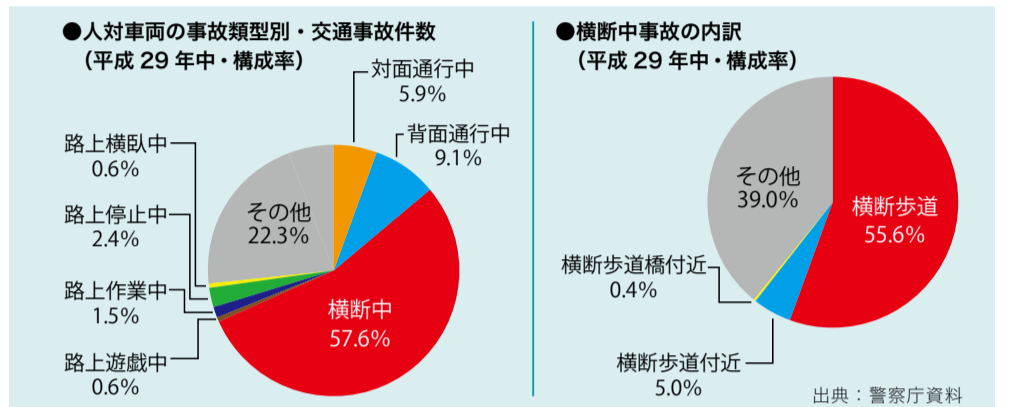
人対車両の事故のうち
半数以上が道路横断中に起きている

平成 29 年中に発生した人対車両の交通事故件数 5 万 756 件を事故類型別にみると、歩行者が道路横断中に発生した事故は 2 万 9235 件と、全体の半数以上を占めている。さらに、このうちの 5 割以上が横断歩道で

起きている。ドライバーや歩行者が特に気をつけなければならないのは、信号機が設置されていない横断歩道を通行する場合だ。信号機がない交差点は、ドライバーは自らの判断で横断歩道の通過と停止、歩行者は横断の可否を判断する必要がある。また、駐車車両などによって見通しが悪い場合は、慎重な安全確認が求められる。



横断歩道の手前で停止し、歩行者に道を譲るクルマ



WATCHING 観察

ドライバーの約半数は
歩行者保護をしていない

東京都港区にある信号機のない交差点で、クルマの歩行者保護状況と、横断歩道を渡る前の歩行者の安全確認状況を観察した。2 時間の観察の結果、横断歩道に歩行者がいる時、歩行者を優先させて一時停止したクルマは 106 台、歩行者を優先せずに通過したクルマは 108 台だった。また、横断歩道を渡る前に左右確認を

した歩行者はのべ 558 人、左右確認をしなかった歩行者はのべ 533 人だった。クルマが止まるのは、既に歩行者が横断を開始している場合が多かった。横断歩道の手前に駐車しているクルマがある場合、ドライバーは左からの横断者を見落として横断歩道を通過したり、気づくのが遅れるケースが見られた。一方、歩行者はスマートフォンの操作をしながら横断歩道に近づき、そのまま画面を注視しながら横断を始めるケースもあり、このようなケースでは渡る前に左右の安全確認を行っていなかった。



歩行者が横断しようとしているのに止まらないクルマ

観察結果

●クルマの歩行者保護状況

	クルマ(台)	合計
歩行者を優先させて一時停止した	106 (49.5%)	214
歩行者を優先せずに通過した	108 (50.5%)	

●歩行者の安全確認状況

	歩行者(人)	合計
横断歩道を渡る前に左右確認をした	558 (51.1%)	1091
横断歩道を渡る前に左右確認をしなかった	533 (48.9%)	

観察場所／東京都港区 東京メトロ「麻布十番駅」付近
 観察日／11月7日(水)
 観察時間／15:00～17:00
 天候／晴れ



クルマがすべて通り過ぎるまで待つ歩行者もいた



スマートフォンの画面を注視しながら横断する歩行者



幼児と手をつなぐ歩行者もいた

ADVICE アドバイス

ドライバーと歩行者の
コミュニケーションが重要

ドライバーには、歩行者が横断歩道を安全に渡れるように配慮することが求められる。走行中、前方に横断歩道の存在を認識したら、横断しようとする歩行者や自転車の存在がないか確認する必要がある。そして、渡ろうとしている歩行者がいる時には、クルマを一時停止させなければならない。また、横断歩道の手前にクルマが駐車している場合、その前方に出る時は一時停止することが義務づけられている。

一方、歩行者においては、クルマが止まってくれるとは限らないことから、横断歩道を

渡る前に左右の安全確認をすることが重要である。観察中、スマートフォンを操作しながら横断歩道の前立つケースも散見され、歩行者に渡る意思があるのかドライバーが判断しにくいように思われた。いわゆる「歩きスマホ」は視線が下に向いてしまい、危険に気づくのが遅れてしまう。スマートフォンを操作したり、注視しながら渡るのは絶対にやめてほしい。今回の観察では、一時停止したドライバーが歩行者に手振りや声で道を譲る意思を伝えている場面がいくつか見られた。信号機のない横断歩道では、ドライバーと歩行者がアイコンタクトをとるなど、互いの意思を示すコミュニケーションが安全のためには重要だといえるだろう。



横断歩道の手前にクルマが停車しているため、歩行者に気づかず、停止しないクルマ